

早期米 出穂から収穫期管理

～収穫までの水管理・病害虫防除を徹底しよう！！～

1. 生育状況

本年の早期米については、田植後天候に恵まれ、気温・日照時間共に高く、生育旺盛となり、茎数は十分に確保できています。コシヒカリの出穂については、早い圃場で7月13日頃からの出穂となり、生育速度は平年並となっています。生育時期に合わせた管理を徹底しましょう。

今後は収穫までの水管理が収量・品質に影響を与えるため、適切な水管理を心がけましょう。

2. 水管理

穂揃い期後の水管理は間断灌水が基本になりますが、中干しが十分に出来ていない場合は、出穂後定期的に干しながら収穫までの水管理を行いましょう！気温が高くなっているため、水がある場所は夜間の水のかけ流しを実施し、収穫7日前には走水を実施しましょう。

また、台風が接近する時などの強風時は葉先の乾燥、裂傷等を防ぐため、必ず深水管理を行う！！

3. 病害虫防除

【いもち病】

曇雨天が続き、平均気温24度で発生が多くなります。病斑が見える圃場は必ず防除を行ってください。

「薬剤」 ワイドナーエース粉剤 DL 「使用量」 3～4kg/反
 または「薬剤」 ノンプラスフロアブル 「使用量」 1000倍 100ℓ/反
 特栽米「薬剤」 トライフロアブル 「使用量」 1000倍 100ℓ/反

【紋枯病】

毎年、紋枯病が発生している圃場では、今年も発生しますので必ず防除を行いましょう。また今後、気温が上昇すれば紋枯病発生の被害が拡大しますので、現在発生していない圃場でも注意が必要です。

「薬剤」 ワイドナーエース粉剤 DL 「使用量」 3～4kg/反
 または「薬剤」 バリダシン液剤 「使用量」 1000倍 100ℓ/反

【カメムシ・ウンカ】

毎年発生しているカメムシですが、今年も多発が予想されます。近年、品質低下の1番の原因となっております。ウンカも飛来していますので合わせて必ず下記の通り防除を徹底しましょう。

- ① 雑草の穂が出穂する前に畦畔の草刈りを行うことが重要。
- ② 出穂14日後（乳熟期）頃に
 キラップ粉剤3～4kg/反 または キラップフロアブル1000～2000倍/反を使用し防除しましょう。
 目安としては、穂がくるぶいた頃が適期となります。

※ 農薬散布の際は、使用基準を遵守し周辺作物へ飛散がないよう注意してください。

※ 栽培履歴の記帳を忘れずに収穫前に必ず提出しましょう！！